

鶴城中だより

文責 校長 船津 巧 No.21

こんな毎日の中に

親死 子死 孫死

二年生が沖繩の修学旅行から帰ってきた。開口一番、彼らは、戦争の悲惨さや平和のありがたさを語ってくれた。

この「親死子死孫死」というのは、一休禪師がめでたい席で書き記したという言葉である。

- ・食べ物があまる。
- ・灯りがともる。
- ・水が飲める。
- ・寝る所がある。

こんな当たり前ないでもなく、命の大切さや平和な生活のありがたさを口にしていく。

新生徒会三役

12月15日、平成30年の新生徒会役員選挙がありました。今年、会長一人、副会長二人、書記一人、副書記二人が立候補し、全員が信任されました。

【会長 森本くん】

鶴城中は挨拶が良い学校です。立ち止まって挨拶すること、目上の人に敬意がたつたり、相手も気持ちよく学校になります。心のこもった学校にするため僕は



【副会長 山口さん】

歴代の先輩方がつくりあげた伝統行事を来年

活動したいと思っています。二分前行動ができるよう呼びかけを行い、みんなが遅れることなく一分前学習に取りかかれるようにしたいと思います。

糸数壕(アブチラガマ)の中は手にする懐中電灯を消せば真つ暗になり、何も見えない。一九四五年四月、この壕の中には一千名ほどの負傷兵と治療する学徒隊がひしめき合っていたという。電気もなく、水や食料もない暗闇の中で、想像を絶するようない日々を過ごした人たち……

やがて逃げ場をなくした沖繩の住民が誰もいなくなった壕の中や断崖絶壁の海岸線の崖から……親や子の命を、自らの命を絶つてしまった。唯一、地上戦が繰り返された沖繩で。

小林一茶は「親が死に子が死にやがて孫が死ぬ」という句を作ったらしい。彼らの時代は、赤子の時に病で亡くなることも多々あったに違いない。親・子・孫という順番通り、早く生まれた者から死ぬことが、如何に尊いことであったことか。そして、どれだけでもいいことであつたかと教えてくれる。

沖繩の方言に、「ぬち(命)どう 宝」というのがある。戦争でたくさん命を奪われた沖繩だからこそ大切にされる言葉であろう。戦争は二度と起こしてはならない。



も受け継ぎ、鶴城中最後にふさわしいものになりたいと思います。みんなの団結力を高め、一人ひとりがみんなのため、自分のために全力を尽くそうと思える学校にしていきたいです。鶴城中は来年度で閉校になります。みんなが「この学校で良かった。」といえる学校にする



【副会長 谷口さん】

ために、全力で活動することを約束します。

鶴城中生徒全員が「この学校は楽しい」「鶴城中で良かった」と誇りを持って言える学校にしたい。鶴城中の魅力は、生徒がいっつも笑顔で元気いっぱいなところですよ。

全校レクレーションや礼儀チェックなどを継続し、悪い部分の改善を図っていききたいと思います。鶴城中の最後の一年で、魅力あふれる学校にする取組を図っていきます。

【書記会計 手島さん】



生徒会役員が文化祭や体育大会などで、準備の時から裏方として仕事を頑張っている姿を見て、立候補しようと思いましたが、三年生が安心して任せられるよう、みんなを引っ張っていききたいです。

今年も心から感謝

世相を表す今年の漢字は、「北」になったようだが、本校の生徒から受ける印象は「成」ではなからうか。成長、成就、成功など何かができた時に使うが、少ない人数で一所懸命頑張る姿は感動的であった。将棋の世界では、駒が裏返った時「成金」などというが、生徒は自分が持つ新しい顔、素晴らしい才能を見せてくれた。これは正に変身すること、「成り」の姿ではないだろうか。



【書記会計 山隈くん】

最後の鶴城中生として、月一回の朝清掃活動をしたいです。勉強や挨拶も大切ですが、グラウンドの草取りや校内をきれいにすることで、自分も磨かれると思います。みんなと一緒に最高の鶴城中を創りあげ、自信を持って歴史に幕を下ろせるようにしましょう。

多くの大好きな鶴城中に何か貢献したいと考え